



防災訓練 7自治体で のべ35会員が活動

県下各地で行なわれた防災訓練に今年も会員が参加した。既報の春日井市をはじめ計 7カ所の自治体で、のべ 35名の会員が額に汗して日用品活用法やエコノミークラス症候群予防のレクチャーを行ない、地域住民への貢献はもちろんのこと、柔道整復師の認知度の向上に寄与した。

8月26日(土)

大府市

午後 5 時から大府小学校グラウンドにて「平成 29 年度大府市地域総ぐるみ防災訓練」が開催され 6 名が参加。

訓練は、会員代表 3 名が訓練車両に乗り込んで入場し、本部前で停車して災害対策本部長（大府市長）に柔道整復師支援活動訓練開始を宣言してからスタートするというスタイルで始まった。

今回我々は、地域住民に対してエコノミークラス症候群についてレクチャーし、なぜ災害時に発生するのかを説明したあと、その予防体操を披露し一緒に行なって重要性を理解してもらった。午後 7 時 15 分の閉会までの間に 22 名が訪れた。



昨年防災協定を結んで初めての訓練であったため、市との連携や段取りが不十分で訪問者数もやや低調であったが、他の訓練や体験・展示コーナーもたくさんあり全体的には盛大な訓練となった。（西松信明）

9月3日(日)

名古屋市名東区

名古屋市民総ぐるみ防災訓練の今年の基幹区のひとつである名東区の豊が丘小学校に地域住民約 300 名・小学生約 300 名が午前 8 時に集合、本会からは 5 名が参加。



図書室に地域住民の救護班 30 名が集合し、また名東区医師会・歯科医師会会長や地域の医師・薬剤師会など 10 名が視察に訪れるなか、身近にあるものを利用したケガの応急救護を実践指導した。

医師会会長らもレジ袋を用いた三角巾の作成を実践され、その簡便さに感銘を受けていた。また、あとから来た小学生たちにもレジ袋で三角巾を作ってもらい、「家に帰ってから家族にもお話しておいて！」とお願いし 11 時半訓練終了した。（井上哲三）

名古屋市守山区

午前中に

下志段味小学校を会場に行われ、大曾根支部の 3 会員が、三角巾講習としてレジ袋を利用した提肘法と、雑誌や新聞紙を副木としたラップ固定法という身近にあるものを使った応急の簡易固定法を紹介した。同校 5・6 年生児童と教職員延べ人数 66 名が受講した。（横井達典）



9月2日(土)

尾張旭市

午後 3 時から 6 時まで、城山小学校にて防災訓練が行われ 4 名が参加。我々は『エコノミークラス症候群』ブースとして、50 名ほどの地域住民に対して一般的なエコノミークラス症候群の説明・予防体操を行なった。なかには、熱心に質問される方や恥ずかしそうに体操をする方がいた。



また、地元のラジオ局『RADIO SANQ FM84.5』の取材も受け大盛況のなか、無事終えることができた。（小平真司）

名古屋市天白区

表山小学校（八事）で開催された総合防災訓練に 3 名が参加。県議、市議及び各防災関係機関や地域



自主防災組織の総勢 1,000 名が参加し、さまざまな防災に関する訓練が行われた。9 時 45 分と 10 時に小学生 12 名の 2 班と地域住民 30 名、15 名の 2 班、計 69 名に対して、身近にあるものを利用した応急救護活動の指導を行った。

11 時頃から天白区長、消防署長、公職者代表からの講評を受け解散となった。（丸谷康男）

岡崎市

午前 6 時 45 分から六ツ美西部小学校にて計 8 名の会員で活動。地域住民約 580 名のうち約 40 名に対し、応急救護訓練として負傷部位固定法や搬送法などの講師を務めた。



施術所で行う上下肢外傷の固定法と段ボールでの下肢の簡易固定法、シーツを使った搬送法を紹介し、三角巾の代用としてのレジ袋とラップを使った上肢固定法を実技指導した。

普段の業務の中で衛生材料を使わずに固定を行うことはなく、私自身も勉強になった。（秋吉 良）

防災訓練参加者（敬称略・順不同、* は本会役員・事業部員・災害対策委員）

【愛知県・春日井市】藤川和秀* / 小林弘治* / 河合一弘* / 福永由隆 / 押谷昌之 / 河邊俊博

【大府市】藤川和秀* / 小林弘治* / 石川 真* / 岩切 誠 / 春日井弘治 / 西松信明

【尾張旭市】小林弘治* / 松井達弘 / 館 利幸 / 小平真司

【名古屋市名東区】長谷川貴一* / 小林弘治* / 石川 真* / 押谷昌之 / 井上哲三

【名古屋市守山区】濱 巧 / 横井達典 / 呉 音

【名古屋市天白区】松浦洋雅* / 丸谷康男 / 山本 篤

【岡崎市】石川益郎 / 大竹康範 / 中村政幸 / 菅沼秀生 / 梅田俊英 / 久野京司 / 西村武蔵 / 秋吉 良

機能訓練指導員認定講習会開催

8 月 26 日（土）・27 日（日）、4 年ぶりとなる第 9 回介護予防・機能訓練指導員認定柔道整復師講習会が行われ、愛知をはじめ秋田・鹿児島などから 64 名（うち本会会員 24 名）の会員らが受講した。

今回より新しく、藤田保健衛生大学リハビリテーション学科の櫻井宏明学科長・教授（写真上）と山田晃司教授（写真中）、西井一宏准教授（写真下）を外務講師にお迎えし、フレイルやサルコペニア・廃用症候群などについての概要や、呼吸器・脈管系・消化器などと高齢者の生理や運動との関係、ベッドや車いすを使用した高齢者の運動療法や介助・移乗方法を、実技を交えて説明していただいた。

また日本柔道整復師会諮問委員の三谷誉会員（一宮）が介護保険における柔道整復師の役割・生活機能向上への取り組み方を講義し、機能訓練研修委員・認知症キャラバンメイトの加藤博史会員が認知症サポーター養成講座を行なった。



半田支部2市で災害救護協定締結

半田支部で、半田市・知多市と本会とのあいだで災害救護に関する協定の締結が続けて実現した。

締結式・調印式には森川会長や小林事業部長らが出席し、会長が各市長と協定書を取り交わした。

半田支部では昨年の 12 月の大府市に続き、2 番目・3 番目の締結となった。



8/24 (木)

宮島壽男知多市長と協定書を交わす森川会長。

小林事業部長・松田支部長・村田衛民・竹内 康会員が同席。

9/11 (月)

榎原純夫半田市長と協定書を取り交わす森川会長。

小林事業部長・松田支部長・加藤博史会員が同席。

